

【第1号議案】令和3年度事業報告

1 事業の成果

令和3年度は、昨年度同様【コミュニティサポート事業】【女性・子ども支援事業】【就業・起業支援事業】【シティプロモーション事業】【中間支援事業】の5つの分野から活動を展開した。

【コミュニティサポート事業】としては、地域住民と登米市に移住してきた震災被災者の交流を図る取り組みとして「ふるさとと全国をつなぐプロジェクト」および「震災と海の暮らしの調査・伝承事業」を実施した。

「ふるさとと全国をつなぐプロジェクト」は町内会とも連携し、さらに被災者のみなさんの自発的な行動をも促すような働きかけをし、大勢の人々の参加を得られた。「震災と海の暮らしの調査・伝承事業」は南三陸町役場等の協力をいただき、紙芝居、動画、小冊子を制作した。それらの成果物は、今後、志津川高校の生徒たちや、フィールドワークなどの教材として活用される予定である。

「食が創るコミュニティ形成事業」は登米市内の21コミュニティに出向いてお料理教室を開催する予定だったが、コロナ禍で公民館等の施設を使うことが出来なくなり、うれしやTOME本店において月2回のお料理教室を開催することとした。年度途中に、宮城県登米農業改良普及センターから登米市内の女性農業者対象の研修会を開催する旨の相談をうけ、「食が創るコミュニティ形成事業」として、ランチ交流会を実施した。このランチ交流会の料理サポートに関わった人たちが地産地消お料理グループみんなクッチーナを結成。その後、パン屋起業や、食育イベントの開催など、自立した活動につながった。

「まちなかみんなのハーブガーデン」は子どもたちの自然体験活動として実施。当初は大網地区内の児童たちの参加を見込んでいたが、子育てサークルのみなさんの参加や、アルテラスおおあみ入居者、うれしやTOME本店のコバコBOX利用者のみなさんも環境整備や、手作り体験会の実施に積極的に参加してくださった。

【女性・子ども支援事業】は地域住民とのネットワークづくりを進めながら女性や子どもの暮らしやすい社会づくりを進めることを目的に、とめ女性支援センター運営事業と放課後子ども居場所・見守り事業を実施した。とめ女性支援センターでは、コミュニティカフェ運営の他、コバコ作家さんの手づくりワークショップや、ご当地アイドルの部活動など、新たな利用がなされた。放課後子ども居場所・見守り事業では、中学生対象に英語教室を開講。外国人がサポートに入ってくれるようになっている。

【就業・起業支援事業】では、布絵本づくりや食品用マットの製作依頼が入りコバコ作家さん向けの継続した仕事の注文を取り付けた他、アルテラスおおあみ出店者に対する販路紹介等の販売支援を行った。

【シティプロモーション事業】は、昨年度から継続している「コワーキングスペースSOU月例会」から発展した「おかえりの里プロジェクト」で登米市の魅力を発信する活動を展開した。

【中間支援事業】ではとめ市民活動プラザの指定管理を受託し、コロナ禍でのコミュニティの地域づくりを支援する体制をとった。

コロナ禍で行動に制限のある中、個々人の活動が地域を元気にするということが体感できるよう、ボランティアな「市民の参加」を進めることを重視してきた。その成果として、元気な登米市の実現のためにさまざまな専門性をもつ人々の知恵、ノウハウが集まった。

来年度は、この「知恵、ノウハウ」を活かして、さらに、社会課題解決のための担い手を育成し、市民主導の民主主義社会を築いていきたいと考えている。

2 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

事業(1)	ふるさとと全国をつなぐプロジェクト	実施日時	令和3年8月1日～ 令和4年3月31日
実施場所	登米市、気仙沼市、南三陸町	従事者数	2人
受益対象者	参加希望者182人	事業分類	コミュニティサポート事業
事業目的	<p>宮城県登米市に移住してきた南三陸町のみなさんがコロナ禍でふるさと・南三陸町の親戚や友人たちと会うのを控えている。また毎年被災地を訪れてくれていた全国のボランティアたちも訪問を取りやめてしまい、交流が途絶える不安を抱いている。この事業ではお茶っこしながらスマホの使い方を練習し、インターネットを活用し季節ごとにゆかりのある全国の人たちとオンライン交流会を実施し、心の復興を目指す。</p>		
事業内容	<p>1. お茶っこスマホ教室</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月1回（8月から2月まで）災害公営住宅入居者と大網3町内会を対象に「お茶っこスマホ教室」を開催し、お茶っこを通じて地域の話などを話しながら、「スマホ」や「インターネット」、「SNS」などについて情報を提供し、参加者の興味ある事柄に対して操作方法や使い方などを説明した。 季節ごとにオンライン交流会を開催し、Zoomを活用して全国各地にいるボランティアの人たちと交流会を開催した。 <p>（全8講座 参加者延べ110名）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">SNS講座の様子</p> <p>2. オンライン交流会（拡大お茶っこ）</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災者と全国の支援者と繋がるオンライン交流会では、南三陸町や気仙沼市の被災者たちが製作しているエコたわし「編んだもんだら」と、それを震災当初から支援する団体とオンラインでの交流を図った。10月には地域子どもたちと被災者たちが繋がる交流会を行い、被災者が読み手となり津波に関する昔話（東日本大震災の内容ではないもの）を読み聞かせた。11月には仙台の支援者たちが集まる店舗とZoomで繋がり、思い出話に花を咲かせた。 		



10月 域の子どもたちとの交流事業





2月 北海道のグループとの Zoom 交流会

成 果	<p>直接的な効果（アウトプット）</p> <p>お茶っこスマホ教室はガラケーからスマホに変える人へ向けて「使い方がわからない」「LINE を使ってみたい」などの具体的な要望を聞き、マンツーマンでスマホの操作に詳しいスタッフが教える形で行った。参加する時間も教室開催時間を長めにとることで、自分の都合の良い時間帯に教室を訪れてもらい、お茶っこを飲みながら話せるので、教室を言って固くならず気軽に参加してもらうことが出来た。</p> <p>波及的効果（アウトカム）</p> <p>震災から10年が過ぎたが未だ被災者と地域住民の間には隔たりを感じることもあり、なかなか地域の行事に参加してもらえないという現状がある。本事業を通じて町内会の関係者から「チラシを持って被災者宅を訪れ、このような誘いが出来て良かった」との声を聞くことができたが、参加者と参加を促す側両者のコミュニケーションが図られ、町内会単位の情報共有や集落行事の重要性を再認識する事業とすることが出来た。</p> <p>※令和3年度宮城県 NPO 等による心の復興支援事業</p>
------------	--

事業 (2)	食が創るコミュニティ形成事業	実施日時	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日
実施場所	とめ女性支援センター	従事者数	2人
受益対象者	参加希望者 80人	事業分類	女性・子ども支援事業
事業目的	<p>登米市民の健康寿命は県内でも低い状況にあり、男性の30代からの肥満や子どもの肥満が多く、また、脳血管疾患の死亡率が県内でも高く課題となっている。登米市の施策では「減塩」や「野菜をあと1皿多くとる」食事を実践しようと食育の重要性を訴えているが、家庭での浸透はまだ低い。そこで、家庭で簡単にできるレシピや季節に応じた「食べ方」について啓蒙活動を進めるための食育講座を実施した。</p>		
事業内容	<p>季節に応じた「食べ方」「過ごし方」についての講話と実食を毎月実施した。</p>		

	<p>講話は市内で食育健康講座を主宰している方に依頼、毎月の食材も提案してもらった。それをもとに調理担当のスタッフがレシピを考案し、漢方やマクロビオティックを基本に食事を作った。食材は地産地消を意識して、直接地元農家から購入する工夫もした。</p>
成 果	<p>講話と実食のメニューについては、毎回、管理栄養士の方にチェックしていただいた。漢方やマクロビオティックの考え方を、栄養学の観点から検証する試みが、参加者のみなさんの安心感につながったと同時に、講話・実食・栄養のそれぞれの立場から、登米市民の健康食育活動の在り方を考える良いきっかけともなった。（※講話担当の方はご自宅でもサロンを開設しさらに地元密着での活動を進めるきっかけにもなった。）</p> <p>参加者はリピーターさんがお友達を連れてくるようになり確実に食育活動の輪が広がった。</p> <p>※キューピーみらいたまご財団助成プログラム A「特定課題3年継続助成」を活用。 『健康寿命延伸のための食育活動 とめコミュニティ・キッチン 「みんな食堂」 プロジェクト』として活動した。</p>

事業 (3)	まちなかみんなのハーブガーデン	実施日時	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日
実施場所	登米市, 大網地区	従事者数	2人
受益対象者	参加希望者 140人	事業分類	コミュニティサポート事業
事業目的	<p>子どもたちが生活する身近な地域で働く人々と共に、ハーブや野菜などの苗植えや生育を体験し交流することによってコミュニケーションの能力を高める。また、まちに憩いの場所を作ることによって子どもたちの将来のコミュニティやまちづくりへの関心を高める。</p>		
事業内容	<p>1. ハーブガーデンのあるまちづくり体験</p> <p>アルテラスおおあみに花壇を整備し、花の苗、草取り水かけなどをし、生育を見守る。水かけはアルテラスおおあみの入居者をお願いし、たびたび草取りも入居者が積極的に行ってくれた。春から秋にかけて年4回ほどハーブガーデンのお世話をした。</p> <p>4月25日（日）11：00～13：00 5月30日（日）11：00～13：00 9月26日（日）10：00～12：00 10月31日（日）10：00～12：00</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

2. 手づくり雑貨体験教室

植物を使った手づくり雑貨体験教室を開催した。

6月19日（土）10：00～12：00「押し花コースターづくり体験教室」



7月21日（水）「ラベンダーを収穫してラベンダースワッグづくり体験教室」



12月18日（土）10：00～12：00「クリスマスリースづくり体験教室」



2月23日（水）10：00～12：00「フラワースタンドづくり体験教室」



	<p>3月6日（日）「お母さんのためのミモザリースづくり体験教室」</p>  
<p>成果と今後の課題</p>	<p>地域の人たちと協力し、自分たちの手で花の苗を植えたり、水をかけたり、草取りをして、身近な花壇で植物の生育に関わることで、自分たちもまちづくりの関わっているという意識を感じてもらえた。また手づくり雑貨体験教室ではそれぞれのアイデアで作品を作り、楽しさとともに地域の人と世代を超える交流してもらえた。参加者の中にはスポーツクラブの団体からの申し込みがあり、周辺とのコラボ企画が生まれ新しい形での実施ができた。</p> <p>※令和3年度子ども夢基金助成事業</p>

<p>事業(4)</p>	<p>震災と海の暮らしの調査・伝承事業 「東日本大震災を知らない子どもたちに海の暮らしを伝える」</p>	<p>実施日時</p>	<p>令和2年4月1日～ 令和3年3月31日</p>
<p>実施場所</p>	<p>登米市、南三陸町、気仙沼市</p>	<p>従事者数</p>	<p>2人</p>
<p>受益対象者</p>	<p>一般市民、不特定多数</p>	<p>事業分類</p>	<p>コミュニティサポート事業</p>
<p>事業目的</p>	<p>震災から10年が経過し、震災を知らない子ども達にとって震災は親から聞いた話か、テレビなどの映像からしか伝えられていない。震災の風化を防ぐことと、海の暮らしの変化を今の子どもたちに知ってもらうために、震災前後の海の暮らしを調査する。</p> <p>また、街の様子や震災後の復興の風景、現在の生活環境などを紙芝居にし、その制作に子ども達にも関わってもらい、子ども達が震災の事を考え、震災前後の海の暮らしと復興の様子を見つめるきっかけとする。併せて、故郷の事を考え、未来のまちづくりを考える子ども達の育成に繋げる。</p> <p>さらに、震災の記憶が風化しないように作成した紙芝居を南三陸町の保育園、幼稚園、小学校へ寄贈し、教材として残す、紙芝居を基にした動画を作成し、町内のみならず全国各地へも伝承活動を広める。</p>		
<p>事業内容</p>	<p>1. 海の暮らしの調査と小冊子制作</p> <p>南三陸町にある「南三陸町自然環境活用センター」を取材し、震災前の海の暮らしや景観を調査した。また震災の影響で変化した現在の様子や、海の暮らしを離れた人たち</p>		

を取材しその比較を行った。調査した結果を冊子にし、登米市と南三陸町の教育機関や観光協会などへ配布した。

【調査期間】 4月～10月

- 【ヒアリング先】 ①南三陸町自然環境活用センター ②水産業者「丸七水産」（寄木）
 ③南三陸町中瀬（災害公営団地）、寄木、気仙沼大島の震災被災者
 ④登米市内災害公営住宅の入居者や自力再建した南三陸町から移住した住民
 ⑤上山八幡宮（志津川）の工藤氏

【小冊子制作】 11月～3月

海の暮らしを伝える冊子「マンガで見る南三陸町」A5 カラー16P 1,000部印刷・配布



2. 紙芝居「ボクらの南三陸町」の制作・配布

震災後の南三陸町の海や山の暮らしを描いたイラストを南三陸町の小学生から募集し、その応募作品をもとに紙芝居作品を制作した。「ハート&アート空間 ビーアイ」の監修のもと、南三陸町の象徴ともいえるモアイが語る物語を創作した。



紙芝居「ボクらの南三陸町」
 集まった70作品の中から16枚を選出し、大型版（62cm×43cm）と小型版（A3）を制作。

3. 「南三陸町海と山の暮らしを伝える紙芝居応募作品」動画の制作・配信

震災と海の暮らしを伝える伝承事業として、制作した紙芝居を各学校や伝承団体などへ寄贈した。また、紙芝居応募作品全70作品を閲覧できる動画（5分17秒）を制作しWeb上で公開した。

成 果

南三陸町を離れて登米市に生活拠点を移した方と南三陸町に残り海の仕事を続けている方両方の話を伺いながら、南三陸町の生活や現状を知ることの出来る冊子をつくる事が

	<p>できた。</p> <p>南三陸町役場や教育委員会、自然環境活用センターの協力をいただきながら集まった 70 作品を通し、海の風景、食べもの、生き物、人々の暮らし等、様々な南三陸町の姿を知ることが出来た。また、その姿を伝えるツールとしての紙芝居を完成させることができた。</p> <p>※令和 3 年度日本財団助成金を活用</p>
--	---

事業 (5)	とめ女性支援センター運営事業	実施日時	令和 3 年 4 月 1 日～ 令和 4 年 3 月 31 日
実施場所	とめ女性支援センター他	従事者数	3 人
受益対象者	一般市民、不特定多数	事業分類	女性・子ども支援事業
事業目的	<p>各種イベント、セミナー、プログラム等を実施し、登米市や南三陸町を中心とする女性支援に携わる団体・個人のネットワークを形成し、利用者の増加を図る。</p> <p>また、世代を超えて協力しあえる関係性を築く学びの場づくりを行う。</p>		
事業内容	<p>1. コミュニティカフェ・うれしや TOME 本店サポート</p> <p>登米女性支援センター内のコミュニティカフェ・うれしや TOME 本店を運営する登米市米山の(株)かのファームに対する各種サポートを実施した。</p> <p>2. 各種交流会及び女性会議の開催</p> <p>地域の女性団体やグループ・サークルの交流促進、地域活動への主体的な参画を図るための各種研修会、セミナー、交流イベント等を開催した。</p> <p>3. 各種相談対応の実施</p> <p>女性の抱える様々な問題の相談対応を実施した。</p> <p>新型コロナウイルスの影響による経済的理由などから、様々な不安を抱える女性への相談支援や居場所の提供・紹介を行った。</p>		
成果	<p>新型コロナウイルスの影響により人数制限を余儀なくされたものの、不安を抱える女性に対する相談対応を実施したことで、安心して過ごせる居場所の 1 つとして提供することができた。</p>		

事業 (6)	放課後子ども居場所・見守り事業	実施日時	令和 3 年 4 月 1 日～ 令和 4 年 3 月 31 日
実施場所	コンテナおおあみ	従事者数	3 人
受益対象者	地元の子どもの達 10 人程度及びその保護者	事業分類	女性・子ども支援事業
事業目的	放課後、ひとりで過ごす時間が多い子どもたちが安心して過ごせる、子ども達の育ちを地		

	域で支える居場所を作る。
事業内容	地域の児童民生委員などの有志からなるビックネットと協力し、子ども達が放課後過ごせる場所として、毎週月、水、金の午後3時半から5時半にコンテナおおあみの1階のミーティングルームを開放した。ビックネットの皆さんには子供たちの見守りとして協力いただいた。
成果	コロナ禍のため市内で感染が増えた場合はお休みをする時期もあったが概ね予定通りの日程で開催出来た。ビックネットの皆さんは高齢者が多いので、机の距離を開け、ビニールシートで分離するなど、居場所での感染対策を万全にして対応した。

事業(7)	コワーキングスペース運営サポート	実施日時	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日
実施場所	コンテナおおあみ	従事者数	3人
受益対象者	入居者6名、施設来訪者延べ250名	事業分類	就業起業支援事業
事業目的	コワーキングスペースSOUの利用拡充とサービス内容の充実を図る。		
事業内容	<p>・コワーキングスペースSOU月例会の実施</p> <p>毎月1回、コワーキング入居者を中心に、広く登米市民に声掛けをして、ブレストミーティングを開催した。</p> <p>継続して話し合うことで、地域資源を活用した取り組み（草木染等）や、自分の事業の見直し（農泊）の必要性に気づき、コワーキング入居者へアドバイスを求める事案も生まれた。</p>		
成果	昨年度から継続している「コワーキングスペースSOU月例会」から発展した「おかえりの里プロジェクト」で登米市の魅力を発信する活動を展開した。		

事業(8)	創業チャレンジャー支援事業	実施日時	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日
実施場所	アルテラスおおあみ他	従事者数	2人
受益対象者	アルテラスおおあみ出店者及び出店希望者	事業分類	就業起業支援事業
事業目的	起業希望者に対する支援を実施し、地域経済の持続的発展を図る。		
事業内容	<p>1. アルテラスおおあみ出店者・出店希望者に対する相談対応及び販売支援</p> <p>出店者同士が気軽に交流するための支援や販路紹介等の販売支援を行った。</p> <p>また、出店者交流会を実施することで、他の出店者がどんな人で、どんな目標を持っているのかを知ることができたり、事業の立ち上げや起業に関する悩みを相談できる仲間と出会</p>		

	<p>う場を提供した。</p> <p>専門家を招いての個別相談や税務セミナーも開催した。</p> <p>2. コバコBOX支援事業</p> <p>とめ女性支援センターhug に設置された小型の販売展示レンタルBOXに出店する女性手作り作家に対し、布絵本づくりと食品用マットの製作依頼を取り付け、継続した仕事の依頼をすることができた。イベントやワークショップ開催のPR、販路や商品のブラッシュアップ等の支援を実施した。</p>
成 果	<p>新型コロナウイルスの影響により地域の経済活動が縮小する環境下、アルテラスおおあみにおいては出店者が増え、地域の活性化に寄与することができた。</p>

事業(9)	グリーンツーリズム実践事業	実施日時	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日
実施場所	登米市米山町かのファーム	従事者数	2人
受益対象者	登米市民及び仙台市民、南三陸町民	事業分類	シティプロモーション事業
事業目的	農業体験を通し、登米市民と他地域の人々が交流を楽しみながら、一年を通じて実践できる都市と農村の交流のモデル事例を構築する。		
事業内容	<p>・ばけつ畑部プロジェクト</p> <p>登米市米山町かのファームの畑をお借りし土づくりから種まき、肥料や水播きなど様々な野菜の育て方や1つ1つの作業の意味を学びながら、収穫、調理まで、10人程度の参加者のもとに、毎月第4土曜日の定例部活として実施した。</p>		
成 果	<p>四季折々の畑の様子を通し、食卓を支えている農業について理解を深めることができた。参加者同士の交流が生まれたり、飲食店経営の方が参加し地元野菜を使ったメニューの開発をするなどの広がりが見られた。また、かのファームさんは六次化に取り組んでいて、納豆や豆腐を市内工場で生産、自社販売をしている。参加者の購買意欲につなげることが出来た。</p>		

事業(10)	とめ市民活動プラザ運営事業	実施日時	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日
実施場所	とめ市民活動プラザ	従事者数	4人
受益対象者	NPO・市民活動団体・コミュニティ組織	事業分類	中間支援事業
事業目的	<p>協働によるまちづくりを推進するため登米市が設置している「とめ市民活動プラザ」の運営を受託し、市民活動に関する情報提供や各種相談、多様な主体と協働した仕組みづくりや人材育成などを実施する。</p>		

<p>事業内容</p>	<p>1. 市民活動に関する情報の収集、提供及び発信業務</p> <p>(1) 機関紙「ぷらっと・とめ」の発行・配布（年4回 6月、9月、12月、3月）</p> <p>(2) コミュニティFMによる情報の発信（まるっと!とめ Like は24回放送）</p> <p>(3) 県内外のNPO・市民活動団体等の活動情報の収集及び提供</p> <p>(4) NPO・市民活動団体等のデータベース管理（NPO団体29団体、任意団体64団体）</p> <p>(5) 地域課題の解決を図る取り組みの情報収集及び提供</p> <p>(6) 窓口スタッフによる各種相談対応、情報提供、案内</p> <p>2. NPO・市民活動団体・コミュニティ組織等への支援業務</p> <p>(1) ホームページ等による情報発信</p> <p>(2) 無料専門相談会の開催（5回開催、相談件数9件）</p> <p>(3) NPO等支援事業NPO交流会の開催（1回、9団体 10名） ※3月はコロナ感染拡大のため中止に</p> <p>(4) 地域づくり計画の実践支援及び各種相談業務</p> <p>(5) NPO・市民活動団体等のイベント協力や取材</p> <p>(6) NPO・市民活動団体等と行政との連携、協働の推進</p> <p>(7) 市民活動支援に関する調査、研究、支援</p> <p>3. 人づくり・人材育成支援業務</p> <p>(1) 人材育成講座の開催（6回開催、参加人数146名）</p> <p>(2) 市民向け講座の開催（3回開催、参加人数64名）</p> <p>(3) 市との連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「登米市まちづくりに関する中学生アンケート調査」（1,842件） ・登米市職員研修「協働よるまちづくり職員研修」（34名） ・令和3年度地域づくり事業事例発表会（80名） <p>(4) スタッフ研修（各種研修及び会議の参加28件）</p> <p>4. 施設の運営に関する業務</p> <p>(1) 施設案内及び利用者への対応（交流・会議スペースの利用者705人）</p> <p>(2) 施設及び設備（印刷機等）の利用への対応</p> <p>(3) 利用者状況資料の作成・報告（月次・年次）</p> <p>(4) 施設設備の管理に関すること</p> <p>(5) 職員体制の計画・労務管理</p>
-------------	---